

安全データシート

作成日 2020/6/25
管理コード 18Nov07-001

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称	LP5(暗所対応型チタン触媒)
供給者の会社名	株式会社リープ
住所	東京都中央区新富1-15-4 アルファ新富ビル4F
担当部門	管理部
電話番号	03-6809-2345
緊急連絡電話番号	03-6257-3707
推奨用途及び使用上の制限	

2. 危険有害性の要約

GHS分類

物理化学的危険性	引火性液体 区分4 自然発火性液体 区分外 水反応可燃性化学品 区分外
健康有害性	急性毒性(経口) 区分外 急性毒性(経皮) 区分外 急性毒性(吸入:蒸気) 区分外 急性毒性(吸入:ミスト) 区分外 眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性 区分外 生殖毒性 区分1B 特定標的臓器毒性(単回ばく露) 区分2(中枢神経系、視覚器、全身毒性) 特定標的臓器毒性(反復ばく露) 区分2(中枢神経系、視覚器)

上記で記載がない危険有害性は、分類対象外か分類できない。

GHSラベル要素

絵表示

注意喚起語
危険有害性情報

危険
可燃性液体
生殖能又は胎児への悪影響のおそれ
中枢神経系、視覚器、全身毒性の障害のおそれ
長期にわたる、又は反復ばく露による中枢神経系、視覚器の障害のおそれ

注意書き
安全対策

使用前に取扱説明書を入手すること。
すべての安全注意を読み理解するまで取扱わないこと。
熱、火花、裸火、高温のもののような着火源から遠ざけること。禁煙。
涼しい所に置くこと。
保護手袋、保護衣、保護眼鏡、保護面を着用すること。

応急措置	ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。 取扱い後は手をよく洗うこと。 この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。 火災の場合には、適切な消火剤を使用すること。 気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。 ばく露又はその懸念がある場合、医師の診断、手当てを受けること。
保管	換気の良い冷所で保管すること。
廃棄	施錠して保管すること。 内容物、容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別
化学名又は一般名

混合物
光触媒溶剤

化学名又は一般名	濃度又は濃度範囲	化学式	官報公示整理番号		CAS番号
			化審法	安衛法	
メタノール	0.1%未満	CH ₃ OH	(2)-201	既存	67-56-1
塩化水素	0.01%未満	HCl	(1)-215	既存	7647-01-0
りん酸	0.01%未満	H ₃ PO ₄	(1)-422	既存	7664-38-2
チタンテトライソプロポキシド	0.01%未満	Ti(OC ₃ H ₇) ₄	(2)-228	既存	546-68-9
水	99.87%以上	H ₂ O	対象外(天然物)	既存	7732-18-5

分類に寄与する不純物及び安定化添加物 情報なし

労働安全衛生法 名称等を通知すべき危険物及び有害物(法第57条の2、施行令第18条の2第1号、第2号別表第9) メタノール(政令番号:560)(10%未満) 塩化水素(政令番号:98)(10%未満)

4. 応急措置

吸入した場合	空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。 気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。 ばく露又はその懸念がある場合は、医師の診断、手当てを受けること。
皮膚に付着した場合	皮膚を速やかに洗浄すること。 皮膚刺激が生じた場合、医師の診断、手当てを受けること。
眼に入った場合	水で数分間注意深く洗うこと。 眼の刺激が持続する場合、医師の診断、手当てを受けること。
飲み込んだ場合	口をすすぐこと。 気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。 ばく露又はその懸念がある場合は、医師の診断、手当てを受けること。

5. 火災時の措置

消火剤	小火災:粉末消火剤、二酸化炭素、散水、耐アルコール性泡消火剤。 大火災:散水、水噴霧、耐アルコール性泡消火剤。
-----	--

使ってはならない消火剤
特有の危険有害性

棒状注水。
可燃性物質：燃えるが、容易に発火しない。
吸入すると有害となるおそれがある。
接触により皮膚や眼に炎症を起こすおそれがある。
火災時に刺激性、腐食性及び／又は毒性のガスを発生するおそれがある。
加熱により容器が爆発するおそれがある。
一般金属と接触すると爆発性水素ガスが放出されるおそれがある。

特有の消火方法

危険でなければ火災区域から容器を移動する。
避難して安全な距離から消火すること。熱に晒されると、破裂して重度毒性蒸気又は分解生成物を放出することがある。

消火を行う者の保護

消火後も、大量の水を用いて十分に容器を冷却する。
空気式呼吸器(SCBA)を着用する。
防火服は火災時に限られた防護をするに過ぎない。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。

関係者以外は近づけない。

風上に留まる。

低地から離れる。

漏洩物に触れたり、その中を歩いたりしない。

立ち入る前に、密閉された場所を換気する。

作業者は適切な保護具(8. ばく露防止及び保護措置の項を参照)を着用し、眼、皮膚への接触や吸入を避ける。

環境に対する注意事項

環境中に放出してはならない。

河川等に排出され、環境へ影響を起こさないように注意する。

排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

封じ込め及び浄化の方法・機材

危険でなければ漏れを止める。

少量の場合、砂あるいは不燃性吸収材を用いて集め、容器に入れて後で廃棄する。

大量の場合、液体の前方にせきを作り、後で廃棄する。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策

『8. ばく露防止及び保護措置』に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。

安全取扱注意事項

使用前に使用説明書を入手すること。

すべての安全注意を読み理解するまで取扱わないこと。
火気注意。

接触、吸入又は飲み込まないこと。

眼に入れないこと。

空気中の濃度を暴露限度以下に保つために排気用の換気を行うこと。

接触回避

『10. 安定性及び反応性』を参照。

衛生対策

取扱い後はよく手を洗うこと。

保管

安全な保管条件	熱、火花、裸火のような着火源から離して保管すること。 禁煙。 酸化剤から離して保管する。 換気の良い冷所で保管すること。 容器を密閉して保管すること。 施錠して保管すること。
安全な容器包装材料	包装、容器の規制はないが密閉式の破損しないものに入れる。

8. ばく露防止及び保護措置

	管理濃度	許容濃度(ばく露限界値、生物学的ばく露指標)	
		日本産衛学会 (2017年版)	ACGIH (2017年版)
メタノール	200ppm	200ppm (260mg/m ³) (皮)	TWA 200ppm STEL 250ppm
塩化水素	未設定	【最大許容濃度】2ppm (3.0mg/m ³)	STEL C 2ppm
りん酸	未設定	1mg/m ³	TWA 1mg/m ³ STEL 3mg/m ³
チタンテトライソプロポキシド	未設定	未設定	未設定
水	未設定	未設定	未設定

設備対策

本製品を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置すること。

密閉する設備又は局所排気装置を設置する。

腐食しにくい材料で造り、内張りを施す等の措置を講じる。

保護具

呼吸器の保護具

必要に応じて個人用呼吸器保護具を使用すること。

手の保護具

保護手袋を着用すること。

眼の保護具

眼の保護具を着用すること。

皮膚及び身体の保護具

必要に応じて個人用の保護衣、保護面を使用すること。
不浸透性の保護衣を着用すること。

9. 物理的及び化学的性質

外観

物理的状態

液体

形状

液体

色

透明

臭い

ほぼ無臭

臭いのしきい(閾)値

データなし

pH

データなし

融点・凝固点

データなし

沸点、初留点及び沸騰範囲

参考(メタノール): 65°C (ICSC)

引火点

90.6°C クリーブランド開放式

蒸発速度(酢酸ブチル=1)

データなし

燃焼性(固体、気体)

適用されない

燃焼又は爆発範囲

参考(メタノール) 5.5-44 vol%(ICSC)

蒸気圧

データなし

蒸気密度(空気=1)

参考(メタノール): 1.1 (ICSC)

比重(密度)

データなし

溶解度

水に可溶

n-オクタノール/水分配係数

データなし

自然発火温度

データなし

分解温度 データなし
 粘度(粘性率) データなし

10. 安定性及び反応性

反応性 通常の条件では危険有害な反応は起こらない。
 化学的安定性 通常の保管および取扱いの条件においては安定である。
 危険有害反応可能性 過剰な圧力又は熱を放出する危険有害な反応又は重合は起こらない。
 避けるべき条件 熱、火花、裸火などの着火源。
 混触危険物質 酸化剤。
 水と反応する化学物質。
 危険有害な分解生成物 一酸化炭素、二酸化炭素、種々の不完全燃焼生成物や有害物質が発生すると推定される。

11. 有害性情報

急性毒性	経口	成分の急性毒性値は、塩化水素 238mg/kg、メタノール 1400mg/kg、りん酸 2000mg/kg、チタンテトライソプロポキシド 7460 mg/kg、水 >100000mg/kgであり、混合物の急性毒性推定値が23660mg/kgのため、GHS:区分外に該当する。
	経皮	成分の急性毒性値は、りん酸 2975mg/kg、メタノール 15800mg/kg、塩化水素 >5010mg/kg、チタンテトライソプロポキシド >16000mg/kg、水 >100000mg/kgであり、混合物の急性毒性推定値が77800mg/kgのため、GHS:区分外に該当する。
	吸入(蒸気)	成分の急性毒性値は、メタノール >31500ppm、水 >1000000ppmであり、混合物の急性毒性推定値が97400mg/Lのため、GHS:区分外に該当する。(混合物の0.9658%は毒性が未知の成分からなる。)
	吸入(ミスト)	成分の急性毒性値は、塩化水素 0.42mg/L、水 >1000mg/Lであり、混合物の急性毒性推定値が293mg/Lのため、GHS:区分外に該当する。(混合物の4.734%は毒性が未知の成分からなる。)
皮膚腐食性及び刺激性 眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性		データ不足のため分類できない。 塩化水素、りん酸が区分1、チタンテトライソプロポキシドが区分2A、メタノールが区分2で、区分1の成分濃度×10 + 区分2Aの成分濃度+区分2の成分濃度の合計が濃度限界(10%)未満のため、GHS:区分外に該当する。
呼吸器感作性		データ不足のため分類できない。 区分1(分類に寄与しない):塩化水素
皮膚感作性		データ不足のため分類できない。
生殖細胞変異原性		データ不足のため分類できない。
発がん性		データがなく分類できない。
生殖毒性		メタノールが区分1Bで濃度限界(0.3%)以上のため、GHS:区分1B「生殖能又は胎児への悪影響のおそれ」に該当する。
特定標的臓器毒性(単回ばく露)		成分濃度が濃度限界(≥1.0%、<10%)の区分1の成分はメタノール(中枢神経系、視覚器、全身毒性)であるため、GHS:区分2(中枢神経系、視覚器、全身毒性)「中枢神経系、視覚器、全身毒性の障害のおそれ」に該当する。

特定標的臓器毒性(反復ばく露)		成分濃度が濃度限界(≥1.0%、<10%)の区分1の成分はメタノール(中枢神経系、視覚器)であるため、GHS:区分2(中枢神経系、視覚器)「長期にわたる又は反復ばく露による中枢神経系、視覚器の障害のおそれ」に該当する。
吸引性呼吸器有害性		データがなく分類できない。
12. 環境影響情報		
水生環境有害性(急性)		データ不足のため分類できない。
水生環境有害性(長期間)		データ不足のため分類できない。
オゾン層への有害性		モントリオール議定書の附属書に列記されたオゾン層破壊物質を含まないため分類されない。
13. 廃棄上の注意		
残余廃棄物		廃棄においては、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。 都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理する。 廃棄物の処理を委託する場合、処理業者等に危険性、有害性を充分告知の上処理を委託する。
汚染容器及び包装		容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。 空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。
14. 輸送上の注意		
国際規則	Regulatory Information by Sea	Not dangerous goods
	Regulatory Information by Air	Not dangerous goods
国内規制	陸上規制	非該当
	海上規制情報	非危険物
	航空規制情報	非危険物
特別の安全対策		輸送の前に容器の破損、腐食、漏れ等のないことを確かめる。 輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れを生じないように積み込み、荷崩れの防止を確実に 行う。 重量物を上積みしない。
緊急時応急措置指針番号		なし
15. 適用法令		
労働安全衛生法		名称等を通知すべき危険物及び有害物(法第57条の2、施行令第18条の2第1号、第2号別表第9)(メタノール、塩化水素) 名称等を表示すべき危険物及び有害物(法第57条第1項、施行令第18条第1号、第2号別表第9)(メタノール)
化審法		優先評価化学物質(法第2条第5項)(メタノール)
大気汚染防止法		有害物質(法第2条第1項3、施行令第1条)(塩素及び塩化水素) 特定物質(法第17条第1項、施行令第10条)(メタノール、塩化水素)

労働基準法

疾病化学物質(法第75条第2項、施行規則第35条・別表第1の2第4号1・昭53労告36号)(メチルアルコール、塩酸(塩化水素を含む))

16. その他の情報

連絡先

株式会社LEAP

参考文献

NITE GHS分類公表データ

EU CLP Regulation, AnnexVI

RTECS

ECHA C&L Inventory Database

ECHA Registered substances Database

記載内容は、一般に入手可能な情報及び自社情報に基づいて作成しておりますが、現時点における化学又は技術に関する全ての情報が検討されているわけではありませんので、いかなる保証をなすものではありません。又、注意事項は、通常の取り扱いを対象としたものであります。特殊な取り扱いの場合には、この点のご配慮をお願いします。